

第30期目録委員会記録 No.6

第6回委員会

日時：2005年10月15日（土）14 - 17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，白石，平田，古川，増井，茂出木，横山

<事務局>磯部

[配付資料]

- 1．目録規則の改訂に関するメモ（4ページ・A4，古川委員）
- 2．NCR課題管理票（7ページ・A4，横山委員）
- 3．日本目録規則1987年版改訂2版追加及び修正第13章継続資料に関する問い合わせに対する回答（案）（3ページ・A4，原井委員）
- 4．The Present Status of Cataloging Rules and Tasks in Japan [発表用資料]（4ページ・A4，永田委員長）

[報告事項]

- 1．新委員について
鈴木智之氏（国立国会図書館）が、松井委員の後任として委員に就任し、次回から委員会に参加することになった。
- 2．前第5回委員会の記録について
最終の修正が終わっていないので、修正後にメーリングリストで送付することになった。

[検討事項]

- 1．今後の目録規則の改訂について
古川委員より配布資料1に基づき、目録を主として典拠管理と関連付けの強化によって改善すべきであるとの観点から、目録規則の範囲の吟味、表現形を対象とする書誌レコードの可能性の検討、構成部分に関する規定の整備、資料種別の再構成、アクセス・ポイントの枠組みの見直し、著者基本記入標目や役割表示の再検討等について説明があり、これに関して次のような意見が出された。
 - NCRの統一タイトルと欧米などで使われている統一タイトルの間には多少ずれがあるので、そのことは意識しておく必要があると思われる。
 - 原著と翻訳を統一タイトルで関連付けることも考えられる。
 - シンタクスがセマンティクスに影響することがあるので、境界線を定める

としたら注意が必要である。

- 電子資料や雑誌論文など構成レベルの書誌情報の記録が図書館の現場以外で作成されている現状がある。
- 標目の典拠管理にも精粗があって良いのではないか。
- 表現形の件については、古川委員が引き続きフォローする。
- MODSの最近の議論について、平田委員がフォローする。
- 資料種別の件について、横山委員がフォローする。

2．目録規則の課題について

横山委員より更新された配布資料2に基づき説明があり、解決された課題と解決されていない課題を確認していくことにした。

3．国立情報学研究所からの問い合わせについて

茂出木委員より、国立情報学研究所にて回答を受け取り、内容を確認した旨の報告があった。

4．韓国中央図書館シンポジウムの発表資料について

韓国中央図書館シンポジウムにおける永田委員長の発表内容について、配布資料4に基づき説明があった。

以上